

オーケストラ

◆東京ニューシティ管弦楽団 第二十九回定期演奏会

この日の定期は韓国の名指揮者、チョン一家の長姉ミユンファが来日、常任指揮者内藤彰の指揮でニューシティ管とドヴォルザークを共演した。前座のシューマン「マンフレッド」序曲から荒れ狂った演奏だったが、続くチョン・ミュンファのソロによるドヴォルザーク／チェロ協奏曲口短調も共感に満ちた秀演で、ミュンファのチェロは音量こそ出ないが、黒光りするような重厚な音色でしっかりと歌い抜く。望郷の念に満ちたアダージョの郷愁も濃厚に出ており、フィナーレもやや鈍いが重い足取りでロマンの大河を表現。ミュンファの男勝りの雄渾なチェロが光った。コーダのコンミスのヴァイオリン・ソロとの絡みも懐かしさの窮み。

後半のシューマン／交響曲第四番二短調もやや荒いが凄絶な演奏で第一楽章は序奏からシューマンの狂気をよく表出し得ていた。ロマンツェの人懐っこさ、スケルツォの物々しさなどかなり優れており、フィナーレの芝居気たっぷりな前進性も小気味良かった。(1月31日、東京芸術

劇場)

(浅岡弘和)

北海道、東北、関東、東京音楽界